

昭和十五年全國麥作付段別及豫想收穫高調

農林省の調査になる昭和十五年北海道麥作付段別及

昭和十五年全國麥作付段別及豫想收穫高

作付段別	豫想收穫高	前年作付段別に比し		前年實收高に比し		前五年年平均實收高に比し	
		増	減	増	減	増	減
大 麥	三、四、六、五三	△	九、七、五、五	△	〇、〇、三、六	△	七、五、二、〇、九
大 麥	四、九、五、四六	△	七、四、九	△	〇、〇、〇、〇	△	五、八、九、七、三
小 麥	八、四、二、八、四三	△	三、一、七、四、四〇	△	〇、二、九	△	四、三、五、七、四

(備考) 麥豫想收穫高の調査時期は北海道は七月一日現在、東北六縣、新潟及長野は六月十日現在、茨城以下三府三十五縣は五月二十日現在の三割とす

大阪市社會部の同市貸家狀況調査

事變下の大工業都市大阪の住宅問題は人口問題上も

で住宅難の現状を如實に物語つてゐる。

忽諾にし難い問題の一つだが、昭和五年以降最近十年間の同市の人口、世帯數、住宅數等の集計は次の如く

年	人口	世帯數	住宅數	空家數	世帯數百に對する住宅數	住宅數百に對する空家數
昭和五年	二、四、五、三、五七三	五、四、一、〇、三三	五、〇、九、八、七四	二、六、九、六三	九四・二四	五・二九
〃 六年	二、五、一、九、五〇〇	五、五、六、二、一〇〇	五、一、七、一、六二	三、〇、六、五	九二・九八	五・九三
〃 七年	二、五、八、六、三〇〇	五、七、一、一、〇〇〇	五、二、九、六、三七	二、八、六、五五	九二・七四	五・四一
〃 八年	二、六、五、四、〇〇〇	五、八、五、六、〇〇〇	五、四、二、〇、六二	二、八、〇、八八	九二・五七	五・一八
〃 九年	二、七、二、三、七〇〇	六、〇、二、六、〇〇〇	五、五、一、八、八七	二、三、九、四六	九一・五八	四・三四
〃 十年	二、九、八、九、八七四	六、三、〇、一、三三二	五、六、三、三、五八	一、九、五、二三	八九・三九	三・四七
〃 十一年	三、一、〇、一、九〇〇〇	六、五、三、九、〇〇〇	五、八、二、二、八九	一、八、九、八六	八九・〇五	三・二六
〃 十二年	三、二、二、三、〇〇〇	六、七、七、八、〇〇〇	五、九、八、三、四一	一、八、六、七八	八八・二八	三・二二
〃 十三年	三、三、三、二、二〇〇	七、〇、〇、一、〇〇〇	六、一、〇、五、九九	一、八、八、〇二	八七・二一	三・〇八
〃 十四年	三、三、九、四、二〇〇	七、一、五、五、〇〇〇	六、二、三、四、四六	六、七、四、三	八六・九九	一・〇八

(備考) 一、人口及世帯數は毎年十月一日現在、住宅數及空家數は毎年十二月末日現在
二、本表は大阪市統計書に依る

なほ同市社會部が同市内所在の延坪三十五坪未満の木造貸家六、七五〇戸(各區より普通住宅三〇〇戸、店舗住宅又は作業場住宅一五〇戸づつ)を選び昭和十五年一月一日現在を以て實施せる貸家調査は大阪市社會部報告第二五一號「本市に於ける貸家の狀況」として發表されたが、之によると右調査貸家の一戸當平均敷地面積一一・四三坪、空地面積一・五九坪、空地の敷地に對する割合一三・九一%、型式は四戸建のもの最も多く、一戸當平均建坪は平家建六・九七坪、二階建一〇・五〇坪、室數平家建二・三〇室、二階建四・二五室、疊數一六・二六疊、家賃は二四・五八圓で延坪當一・六六圓疊一疊當一・五一圓となつてをり、昨昭和十四年十月十八日の地代家賃統制令の公布以前に於ける家賃の變動狀況を見るに、昭和十四年九月一日現在の家賃を前年昭和十三年八月四日當時と比較せる結果は値上げせるもの三九件、値下げせるもの一九件、また同法公布後の昭和十四年十一月一日現在を同年九月一日當時と比較せる結果は値上げせるもの五件、値下げせるもの一件(その内統制令により舊に復せるもの七件)となつてゐる。

なほ右調査貸家の家主一、九四四人の内貸家新築の意志を有せざるもの一、八六三人が其の理由として擧ぐる所を百分比を以て示せば次の如くである。

- 建築材料入手困難の爲 二〇・〇八
- 敷地無き爲 五・〇五
- 資金不足の爲 一七・五五
- 採算取れざる爲 六・三九
- 材料高き爲 二六・五二
- 家賃統制の爲 二〇・〇四